

令和7年度 第2回 学校運営協議会 会議録（要点記録）

1. 開催日時 令和7年9月12日（金） 13時30分から15時40分まで
2. 開催場所 浜松市立浜北北部中学校 尽力ホール
3. 出席委員 山本忠雄 河合貴幸 馬塚孝雅（学校支援CD） 鈴木貴子 小西雅子
4. 欠席委員 なし
5. オブザーバー 細川恭由（中瀬協働センター）
6. 学校支援コーディネーター（委員外） 岡本奈緒（兼CSディレクター）
7. 学 校 中野有哉（校長） 松島 歩（教頭） 永田大介（教務主任）
石島正巳 市川智也（CS担当教員）
8. 傍聴者 なし
9. 会議録作成者 岡本奈緒
10. 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、委員から会長を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

11. 協議事項

- (1) R7年度の活動について
- (2) 学校支援ボランティアの計画について
- (3) 学校評価について

12. 会議記録

司会の教頭より、委員総数5名のうち5名の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) R7年度の活動について（あいさつ運動・行事への参加）

・授業参観感想、あいさつ運動について

河合委員：1年を通してこの時期の参観をどう見るかは、学級にまとまりがあるか、充実期に向けての土台ができていくかだ。個々においては、夏休みの疲れ、友達関係の悩み等もあるだろうが、全体的にはそれぞれの発達段階において落ち着いた学級が多く、集団として成立していて安心して見ることができた。後半の学級活動での目標作りの時期。この良い状況を糧としていただけたらと思う。また、発達段階の差が非常に大きいと感じた。先生方の段階に応じた接し方へのご苦労を感じる。校内研修等で現状を見ながら子供たちに適切な指導を続けていただきたい。

馬塚委員：日焼けした子が多く見られ、この夏頑張ったのかなと実感した。ニコニコして前を向く子が多く、居眠りしている子も少なかった。先生方の授業の進め方に感心した。Gワークでは覗き込む生徒もいて、授業が面白いのだろうと感じ取れた。得意・不得意の教科はあるだろうが、子どもは純粋で面白い先生だとそれが面白い教科になったりする。しっかり子どもたちの心をキャッチしているのだと感じた。引き続き子供たちへ愛情を注いで信じていただけたらと思う。

鈴木委員：受け身の授業ばかりではなく、Gワークの中でみんなで考えたり、各自で考える時間を取

るなど、考える力をつけさせるような授業が多かった。3年生も疲れを感じさせず、生き生きとした良い顔をたくさん見ることができた。

小西委員：家庭科でもタブレットを使用していて時代を感じた。学年による体格差に驚いた。特に3年生は体格と元気の良さに教室が狭くも感じた。エアコンが効いていない教室では暑かったが、逆に寝られず活力が出ていて前のめりでエネルギーだった。

オブザーバー：全体的に集中していた。中にはちょっかいを出す子もいたが、出された子がそれに対して反応しない。連鎖をしていかないところはしっかりしていると感じた。また、支援学級では想像以上に授業に集中していた。先生方の教え方が上手なのだろう。

山本会長：授業でどう頑張っているかを拝見することが委員に与えられた役目の勘所であるが、あいさつ運動で始業式に登校の様子を見る事は大事な役目、今後も継続する。

小西委員：参加して良かった。子供たちのおかげで逆に元気をもらい自分も良い影響を受けた。体操服を出している子が先生に注意されて渋々直す子。先生の姿を察して見つかる前に直す子。また、見つかるまで直さない子、様々な光景があった。みんな優等生というより、そういった光景が可愛らしくもあり、注意された子が素直に聞き入れる姿は健全だなと感じた。また、こちらからの声掛けに対して無視する子はほとんどなく、声の大小はあってもあいさつにはあいさつで返すことが身についていると感じる。

鈴木委員：あいさつ運動を始業式にやることに大変意味がある。横断幕も最高だった。声だけではなく「2学期も頑張ったね！」の温かい言葉のメッセージをたくさんの子に見てもらえたと思う。休みボケの子もいたと思うが、意外なメンバーが立ってあいさつしているとそれだけでほっこりしてくれた子もいたのではないかな。是非、継続していきたい。

馬塚委員：先日、CD研修に参加した。教育総合計画の中にある「健やかな心身育成」というキーワードについて重点的に考えるディスカッションをした。望ましい生活習慣を確立するということで、やはりあいさつ、コミュニケーションという単語は必ず出る。大人からこういったきっかけを発信することが大切だと感じる。次回はあいさつ運動に参加したい。

河合委員：初めての参加でドキドキしていたが、素直な生徒ばかりでとても心地よく感心した。正門で心を開いて入ってくることが、校内でも心を開いて勉強や運動へ繋がっているのだと思う。そういう状態を作ることが大切。あいさつ運動の際、子供たち一人ひとりの違いを理解し声掛けの内容を変える先生がいた。全職員がそうだとしたらそれは子どもにとって幸せな環境だ。子供たちは学校に来るときは構える。徐々に気持ちを高めながら校門をくぐる。その一点が集約されていると思うとあいさつ運動は大切だ。

山本会長：先生方や生徒さんの受け止めはどうか。

石島：地域の方が立ってくださることで知った顔もあり、ニコニコして入ってくる子もいて、子どもたちにも刺激があった。ASK活動の効果もあり、定着してきていると思う。

市川：普段立っている職員ではなく、地域の方が立ってくださることで、子供たちも新鮮な気持ちで正門を通過できると思う。また子供たちにも確認してみたい。

山本会長：次回開催は、2学期終業式12/19（金）、3学期始業式1/6（火）実施。7：40集合。

・行事への参加について

石島：年間計画にもあるように、直近では合唱コンクール、10月には体育祭が予定されています。

す。是非、生徒たちの様子を見にきてください。

山本会長：今年度は生徒会本部との交流について計画はいかがなものか。

石島：生徒会と話し合いができるように調整していきたい。

馬塚委員：子供たちとキャッチボールができると良い。何かテーマをもってやるのか。

鈴木委員：突然聞いても答えられないだろう。事前に質問をしておくのはどうか。

河合委員：もう一つの視点として、頑張っている生徒会を「鼓舞する場」であっても良いのではない
か。これにより生徒会が活気づいて、結果みんなが元気になるだろう。

鈴木委員：良い機会なので、私たちにできることの何かヒントがいただけたらと思う。

校長：子供たちには学校生活、地域を軸に語れるように準備をしておく。

(2) 学校支援ボランティア計画について

岡本より、発足からこれまでの経緯と実績、また現在のボランティア計画について説明があり、
委員から以下の発言があった。

山本会長：学校の応援団として何をやったらよいか、というところで支援ボランティアが始まった。

授業に寄り添っていただくボランティアさんの活躍を委員として応援して欲しい。

河合委員：参観したい場合はどのような手順で行けばよいか。

岡本：10 月から始まるボランティアスケジュールの全体をお知らせする。事前にご連絡いただ
ければ関係者に周知し、対応する。

(3) 学校評価について

教務主任より、今年度の学校評価の計画案について説明があり、委員から以下の発言があった。

河合委員：保護者にとっては難しいところもあるだろうが、この設問は学校が力を入れている点だと
置き換えることができる。良い点をおさえてバランスの良い設問が並んでいると感じる。
加えて、あまり内容をこころろ変えない方がよいだろう。

山本会長：項目に沿って家庭でもこういった視点で子どもを見つめ、褒める子育ても必要。学校がこ
のような姿勢で頑張っていると受け止めることで、親の役目、姿勢として繋がっていくの
だと思う。

教務主任：項目については職員の間でも議論し、数値とアンケート結果に乖離が生じていた場合、ど
ういった手立てが足りなかったのか、また、来年度に活かすためにはどうしたらよいのか
を含めて、また次回ご報告させていただきたい。

教頭より、今後の学校行事のスケジュールと次回の会合日程を確認し、会を閉じた。